



## 米國に再遊する

今回ホンの素通りでした

ツマラの拙著をたどにかけて

なご文士に珍らしい謹遜振

ツマラの拙著をたどにかけて

れられた質素な妻「米國をゆづく」

途に在る我が文壇の重鎮蘆花德

富次郎氏夫妻は昨紙既報の如

く絶育より鐵路南歸經由して

欧洲戰跡の巡禮を了へての歸

途に在る我が文壇の重鎮蘆花德

富次郎氏夫妻は昨紙既報の如

く絶育より鐵路南歸經由して

英語

熟練せる

通譯

明治廿一年設立

資本金六千萬圓

積金七百八萬圓

定期

支店

明治廿一年設立

資本金六千萬圓

積金七百八萬圓

定期

支店

明治廿一年設立

資本金六千萬圓

積金七百八萬圓

定期

支店

&lt;p

# 戦争は最も愚なり

ホイラー加州大學招待會で日本の善隣を説く

## 渡日目的

日本民情の視察

過去廿年間加州大學総長より現名譽總長たるホイラー博士が來る廿八年出帆の西比利亞九日米關係委員渡日團に加はり憧れ日本を訪ぶに付同大學

日本樂部は一夜夜七八時より博士を日本樂部に招じて送別の方室を

世界に於ける有數の希腊學者で一部に招じて送別の方室を

曾て希腊アゼンの大學に教授をしてゐた時執事のある博士風本年六十

五歳で魯意氣壯なるものが居る

席上博士は興味ある卓上演説を

試みて曰く

予が初めて日本人學

生を知れるは實に四十年前コ

ネル大學に教授をしてゐた時

ある當時子の数へし學生中にあつた子供なさ

教師に對して特別な

尊敬と思ふ精神を有つてゐる

予のコネル大學教授たり際

衛生委員長として病める二人の

日本學生を世話をした事があるが

其後之等の人々の弟達が勉學の

爲め酒水を兄弟の身を以て受け取

べき關係と感情を有つてゐる

日本學生は昨年逝去した三崎子爵なさ

一體日本學生に就いて欣ぶ

# 戦争の如き愚かなる

手段を以て解決する者に非ず

相互の諒解に據る外はない

相手の諒解に據る外はない

理想な生活は野蠻人の生活であ

る余は今實際生活を離れて

る者だが自分の理想に即して

本年度豫算に編入する事

が既に実現されたる

生活してゐる今度の渡日は我

が感心した今は理想的の世界で

理想な生活は野蠻人の生活であ

る余は今實際生活を離れて

る者だが自分の理想に即して

本年度豫算に編入する事

が既に実現されたる

生活してゐる今度の渡日は我

が感心した今は理想的の世界で

理想な生活は野蠻人の生活であ

る余は今實際生活を離れて

る者だが自分の理想に即して

本年度豫算に編入する事

が既に実現されたる

生活してゐる今度の渡日は我

# 飛行郵便計画

新規開拓案

飛行郵便

# 春洋丸三等船客に豫防注射

豫防注射の結果

豫防注射

# 春洋丸三等船客に豫防注射

豫防注射の結果

豫防注射

# 春洋丸三等船客に豫防注射

豫防注射の結果

豫防注射

# 春洋丸三等船客に豫防注射

豫防注射の結果

豫防注射

# 春洋丸三等船客に豫防注射

豫防注射の結果

豫防注射

# 覺醒を要する理由

固定せる惡習慣の打破と矯正  
善良且進歩的制度の確立必要

講演の目的は「同胞の覺醒」  
夫れ承知して以上何か同胞の覺醒に關して話さねば、義理が済まぬ譯である。覺醒と言ふ言葉は種々の意味があり、又機知を要するに醒むる事。

一般動物の場合これをして生理的見ゆるる睡眠と覺醒とは生理性に於ける兩面であつて何よりも活動を離れてゐる重要な現象である。睡眠の不足は養春の不十分によるものである。

睡眠不足は、人間の活動を破壊するものである。偉大なる活動を望む者は充分の睡眠を必要とする。

# 火曜日の桑港市場

(二月十七日)

野菜類

三月一

四月一

五月一

六月一

七月一

八月一

九月一

十月一

十一月一

一二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一

一二四月一

一二五月一

一二六月一

一二七月一

一二八月一

一二九月一

一二十月一

一二十一月一

一二十二月一

一二三月一







流るゝ雲

寺澤琴風

新刊書

生田長江譯

室伏高信著

全譯資本論

(第一分冊)

松本悟郎譯

社會主義批判

(一卷)

坪内士行著

社會改造の原理

(二卷)

植原虎二郎著

日本改造

デモクラシーと日本の改造

高畠素之著

馬ルクス學研究

(一卷)

澤田順次郎著

性慾に關して

青年人界女に答ふる書

奥野多見男著

男女生殖器問題

(一卷)

鳩山泰子著

我妻恒子著

姫姫こ安産

(一卷)

奥野多見男著

家庭論神人一代

(一卷)

高澤格三郎著

(一卷)

日

S. F. Cal.

入院隨意

(一卷)

黒澤格三郎

(一卷)

日

S. F. Cal.

病

(一卷)

本

(一卷)

院

(一卷)

日

S. F. Cal.

入院隨意

(一卷)

日

S. F. Cal.

病

(一卷)

本

(一卷)

院

(一卷)

日

S. F. Cal.

入院隨意

(一卷)